

一般質問通告書

通告順番 2 番

通告者 村山 龍一 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
1 大津町の農林業振興をどのように進めていくのか	(1) 金田町長は、3 月の所信表明で、「TSMC の進出によって厳しい状況にある農業の振興に関しては、矢護川の圃場整備事業やスマート農業導入の助成、農地のマッチング等を通して、今後益々加速することが見込まれる人材不足の中でも営農が継続できるとともに農地を保全できる体制づくりを支援していきます。一方では、目下の農地不足や営農環境の悪化に対応するために、県とも連携しながら町内での新たな農業団地の整備や家畜のし尿処理の課題にも取り組みます。」と農業に対する取り組みを説明された。今後は、町の農業政策の方向性を示していく必要がある。 (2) 大津町の農業の現状として、町勢要覧によると、産業別 15 歳以上の農林業の従業者数は、昭和 35 年（1960 年）6,265 人で、昭和 50 年（1975 年）3,082 人、平成 12 年（2000 年）1,459 人、平成 27 年（2015 年）は 1,241 人と減少している。 農家数についても、昭和 55 年（1980 年）は 1,635 戸から平成 12 年（2000 年）は 20 年で 1,148 戸と約 3 割少なくなっており、平成 27 年（2015 年）には、652 戸と 15 年で半減している。現在の農家数はもっと少なくなっていると考えられる。 しかし、経営耕地面積は、平成 12 年（2000 年）は 1,897ha、平成 27 年（2015 年）は 1,689ha と約 1 割の減少となっている。また、家畜飼育頭数は、乳用牛で、平成 12 年（2000 年）は 2,751 頭、平成 26 年（1999 年）は 2,397 頭と約 1 割の減少となっている。つまり、経営規模が拡大していると考えられる。他の農家形態においても、このような状況はますます進んでいくものと思われる。 (3) 林業についても、林野面積は、平成 22 年（2010 年）は 5,151ha、平成 27 年（2015 年）は 4,628ha となっている。林業についても大津町の森林を守り、水源涵養も担っている大切な営みであると考えられる。 このような状況において、農林業に従事する人も減ってきているのではないのか。大津町の農林業の現状はどのようなになっているのか。大津町の基幹産業として農業振興をどのように進めていくのか。林業振興をどのように進めるのか。町長に考えを問う。	町 長

一般質問通告書

通告順番 2 番

通告者 村山 龍一 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
2 町の道路整備について	町道本田技研南通線、通称：フラワーラインと呼ばれているが、沿道にある桜の木が、倒木の可能性があり、現在、伐採が行われている。これは仕方がないことだと思う。 しかし、町民からは「桜のトンネルはどうなるのか？」「桜の木は植えないのか？」の声や「明るくなって見晴らしが良くなった。」との声を聞く。どのような道路に整備するのか考える必要があるのではないかな。 その他の道路でも、県道北外輪山大津線は、通称：ミルクロードと呼ばれ、広域農道で整備され町に移管後、県道で管理を行われ、高尾野地区や新小屋地区の発展につながっている。町道三吉原北出口線から県道大津植木線は、農免農道として整備後、渋滞解消のために町道や県道で多車線化の整備が行われている。町道古城線や真木線は、辺地対策事業で整備をされ、地域をつなぐ重要な生活道路となっている。町道中島線などは南部の台地につながる生活道路となっている。道路は、地域の発展には欠かすことができないものであり、安全な道路や渋滞対策のための道路整備などそれぞれの道路の役割があり、その時代の道路整備が伺える。 町として、道路を整備するうえで、その道路や路線の方針が必要ではないか。また、町の道路の状況と今後の整備方針について町長に考えを問う。	町 長